

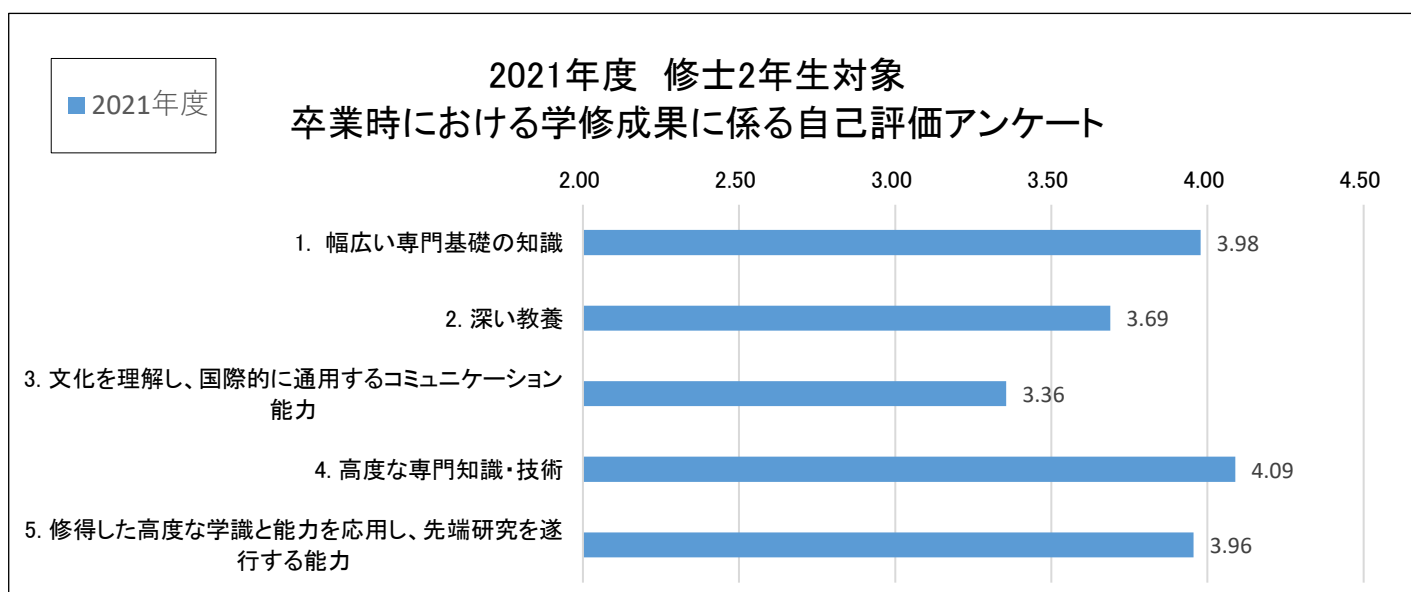
2021年度 修士2年生対象 修了時における学修成果に係る自己評価アンケート結果

【設問】 本学修士に入学後に学んだこと、経験したことを振り返り、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に掲げている能力や知識が、どの程度身についたかを回答してください。（2022年2月調査実施）

＜主な活動・出来事＞
講義科目（専門科目）、主専攻・副専攻履修、教養科目（科学・技術と人間・社会、各種講演会）、英語科目（科学技術英語・海外英語演習）、TOEICスコア、E-SUP制度、iPlaza活動、外国人研究員等との交流、定期試験、レポート作成、課外活動（同好会・天樹祭・アクティブチャレンジ等）、国際寮での生活、TA実習、教員の研究指導、学会発表、論文投稿、修士学外実習（国内・国外）、TTIC留学、研究室セミナー、修士研究、修士論文作成、研究発表会、就職活動 など

【回答集計】

2021年度	回答率100%（回答者数45名／修了者数45名）					回答数	平均
	身についた (5点)	まあ身についた (4点)	どちらとも言えない (3点)	あまり身につかなかった (2点)	身につかなかった (1点)		
1. 幅広い専門基礎の知識	9	28	6	2	0	45	3.98
2. 深い教養	5	25	12	2	1	45	3.69
3. 文化を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力	7	17	10	7	4	45	3.36
4. 高度な専門知識・技術	13	25	5	2	0	45	4.09
5. 修得した高度な学識と能力を応用し、先端研究を遂行する能力	11	25	6	2	1	45	3.96



【結果考察】

- ・修士学生への調査は今回初めて実施。
- ・2年間にわたりコロナ禍を直撃。特に、1年次は出校制限があり、研究室での研究活動は8/17以降となり大きな影響を受けた。また、学外活動も制限を受けた。一方、オンライン講義アンケート結果から、講義の受講に大きな影響はなかったと見られる。
- ・学部4年生へのアンケート結果とほぼ同様の傾向が見られるが、全体的に評価が若干低めとなっている。